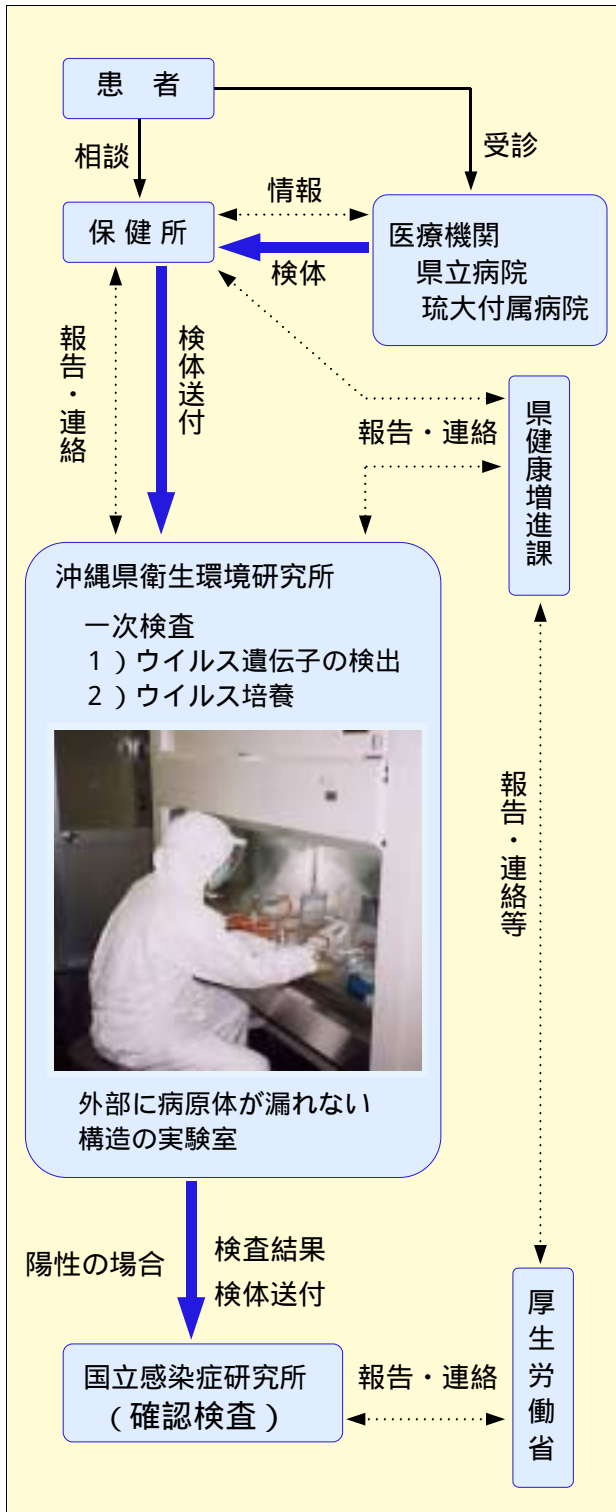


SARS発生時の 当研究所の役割

県内でSARS（重症急性呼吸器症候群）の疑いの患者が発生した場合、医療機関で採取され送付された検体について、当研究所で一次検査を実施します。一次検査結果が陽性の場合には国立感染症研究所で確認検査を実施します。検査の流れは下図のとおりです。（微生物室）



レプトスピラに 気をつけよう



レプトスピラ菌の電子顕微鏡写真

沖縄本島では、2003年7月～8月の間にレプトスピラ症の患者が多発しており、注意を呼びかけています。感染場所は北部地域の川と推定されており、5歳から55歳までの男女計14人が感染し発症しています。

レプトスピラ症は、病原性レプトスピラという細菌の感染によっておこる人畜共通感染症です。感染すると1～2週間の潜伏期のあと、頭痛、発熱（38 以上）、筋肉痛、目の充血などの症状が出ます。重症になると黄疸、腎障害等の症状が現れ治療しないと死亡するケースもあります。

本症を引き起こす細菌は、ネズミやマングース等の体内に潜んで尿中に排菌されることから、これらの尿で汚染された土壌や水との接触により皮膚の傷、目や鼻の粘膜からヒトの体内に侵入します。稀に汚染された水を飲むことで感染することもあります。ヒトからヒトへの感染はほとんどありません。治療薬としてペニシリン、ストレプトマイシン等の抗生物質が有効とされています。

河川を主な感染源とするレプトスピラ症は、1999年に八重山地域でシーカヤックインストラクターなど、観光に関連した職種を中心に多発しましたが、沖縄本島での多発例はこれがはじめてです。（微生物室）

レプトスピラ症予防のポイント

1. 皮膚に傷がある場合は、水田や川に入らないこと。
2. 素足で長時間水田や川に入らないこと。皮膚がふやけてくると感染することがあります。
3. 川や水田に入ったあと3～14日以内に発熱、頭痛、筋肉痛の症状がでたらすぐに病院で受診すること。